

## 【ウパニシャド勉強会まとめー1 月分】

94 回目 (2025 年 1 月 15 日)

### 1 月 15 日「カタ・ウパニシャド 1-1-1 の説明」

最初はウパニシャドの勉強の準備について、たくさんの事柄を話してきました。そして、今日から「カタ・ウパニシャド」の勉強を始めます。

昔は多くのウパニシャドがありましたが、現在まで受け継がれているウパニシャドは、それほど多くありません。その中で、有名なウパニシャドがカタ・ウパニシャドです。

カタ・ウパニシャドの特徴は「包括的」です。全部が網羅されています。例えば、マーンドゥーキヤ・ウパニシャドは、OM (オーム) だけがテーマです。

そして、ウパニシャドの中には、節が多いものがあります。ブリハドアーラニヤカ・ウパニシャド、チャンドーギヤ・ウパニシャドなどがそうですが、逆に、少ない節、イーシャー・ウパニシャドやケーナ・ウパニシャドなどもあります。カタ・ウパニシャドはその中間にあります。

また、カタ・ウパニシャドは、サンスクリットという言葉があまり難しくありません。そして、詩がたくさん盛り込まれています。

4 つのヴェーダの中に、ウパニシャドがありますが、カタ・ウパニシャドは、2 つのヤジュルヴェーダ (シュクラ・ヤジュルヴェーダとクリシュナ・ヤジュルヴェーダ) のうちの、クリシュナ・ヤジュルヴェーダです。

この聖典を紹介するときは、「クリシュナ・ヤジュルヴェーディヤ・カタ・ウパニシャド」といいます。

スワミー・ヴィヴェーカーナンダは、カタ・ウパニシャドが大好きで、何回も引用して話をしていました。有名な節は、「立ち上がれ、目覚めよ」です。

どうして、名前がカタ・ウパニシャドになったのでしょうか。実は本当のところはわかりませんが、説が 2 つあり、1 つは、ある聖者の名前が「カタ」であったというのと、もう 1 つは、ウパニシャドの名前が「カタ」ということです。「カタという聖者」が、カタ・ウパニシャドを作ったということではありません。2 つは関係がありません。

また、ウパニシャドの中には、イーシャー・ウパニシャドなどのように、最初からウパニシャドの考えを説明している聖典もありますが、チャンドーギヤ・ウパニシャドや、ブリハドアーラニヤカ・ウパニシャドのように物語が入っている聖典もあります。

しかし、カタ・ウパニシャドは、最初から物語で始まっています。なぜなら、ウパニシャドのテーマは簡単ではなく、とても深く精妙ですから、いきなりテーマから始めると、勉強のやる気がなくなる恐れがあります。ですが、物語を好きではない人はあまりいませんから、最初に物語から始めることで、印象が深くなり、またやる気が出ます。薬の糖衣錠のような効果があります。

各宗教の悟った人や、神の化身、イエスもたくさんの物語を使っています。普通の物語には、教えは入っていませんが、お釈迦さまの言葉 (仏典) や、協会発行の「ラマクリシュナの福音」には、たくさんの物語があり、その中に大切な教えが入っています。

大切な教えをそのまま伝えると、複雑なので意味がわかりませんが、物語を使うことで、シンボリックでわかりやすくなっています。

しかし、物語はわかりやすいですが、物語のメッセージが何であるか、わからない人も多くいます。そのために、後から、イエスや仏陀やシュリー・ラマクリシュナは、実践を通して説明をしていました。

聖典の教えを実践しないで教えるだけでは、結果が出ません。自分で実践して説明をすることで、インパクトが出ます。

他の勉強と違い、聖典では、学んだことを理解するには、実践が必要です。頭だけではなく、体のレベル、感覚のレベル、心のレベルで実践しないと本当の理解はできません。

「バーガヴァタム・プラーナ」についての物語です。ある王様がバーガヴァタムの節がとても難しく自分で勉強できないので、よく勉強した学者（パンディット）を、あちらこちらを探して見つけ出しました。

そのパンディットは、素晴らしい方法と言葉で説明しました。そして最後に王様に「私の言うことを理解しましたか？」と尋ねました。すると王様は「あなたが理解して下さい。」と答えました。

普通は、先生に対して生徒はそのように答えません。マナー的にも良くありません。普通は、先生が理解をしているので教えています。しかし、パンディットは家に帰ってからも「どうして王様は、あのようなことを言ったのか」と、毎日考えていました。

バーガヴァタムで一番大切な教えは「放棄する」ことです。バガヴァッド・ギーターも同じです。「中の放棄」と「外の放棄」がありますが、最初は外の放棄をして、それから、中の放棄を続けます。ある人は、外の放棄ができなくて中の放棄をしますが、一番理想的なのは、両方を放棄することです。

瞑想など、いろいろな霊的实践をしていますが、まだ、執着がいっぱい、欲望もいっぱいあります。それでは、バガヴァッド・ギーターを教えることはできません。

パンディットは、「多分王様は、そのことを私に言っているのだろう」と理解しました。バガヴァッド・ギーターの先生は、もちろん言葉の意味はよく知っています。それにアイデアもよく知っていますが、大切なのは「放棄」です。

王様は、そのパンディットは、欲望がいっぱい、執着もいっぱい、放棄を実践していないことを知っていましたので、そのように言いました。そのパンディットは、最初は自分が実践しないといけないことを理解しました。そして、ある人に「今、私はわかりました。王様に言って下さい。」と伝えて、バーガヴァタムのすべての教えを実践するために、家族と離れて家を出ました。

聖典の教えは、自分で実践しないで、他の人に教えても、インパクトが何も伝わりません。

同じように、「ラーマクリシュナの福音」にもカタ・ウパニシャドにも面白い物語があります。カタ・ウパニシャドには物語はありますが、それほど詳しくは書かれていません。ヒントだけです。それを、注釈者がそのヒントを基にして物語を作りました。それが糖衣錠のような効果をもたせる理由です。

初めの Part1 の Chapter 1 のシャンティマントラが、「サハナーヴァヴァトウ」です。ウパニシャドにはいろいろなシャンティマントラがありますが、カタ・ウパニシャドのシャンティマントラが「サハナーヴァヴァトウ」なので、私たちは最初に唱えます。

第1節を読みます。皆さんも一緒に発音して下さい。聞くだけでなく発音すると、サンスクリットの発音の勉強にもなります。

オーム ウシャン ハ ヴォイ ヴァージャシュラヴァサ サルヴァヴェーダサム ダダウ タッサ ハ ナチケータ ナーマ フットラ アーサ  
*Om uśān ha vai vājaśravasaḥ sarvavedasaṃ dadau ; Tasya ha naciketā nāma putra āsa Verse 1.1.1*

寄付行為で有名な聖者の家系であるヴァージャシュラヴァサは、もっと多くの報酬（儀式の恩恵）を願って、自分の富すべてを寄付するヴィッシュワジトという儀式を行った。彼にはナチケータという名の若い息子がいた。

【訳】協会書籍『ウパニシャド 改訂版』P44 8 行目

ある時、ヴァージャシュラバスの子ウシャス<sup>(\*)</sup>は神の恩恵を願い、財産すべてを捧げる必要のある供儀を執り行った。

\*協会書籍 注一より：底本では供儀を執り行ったのはヴァージャシュラバスとなっているが、サンスクリット原典に基づいてヴァージャシュラバスの子であるウシャスに改めた。

【単語】

オーム (AUM, om) オームはとても神聖な文字です。オームの意味は以前話しました。

ウシャン (uśan : 報酬を願い) 儀式をすることで得られる報酬を願い。すべての楽しみの報酬、天国に行くことの報酬、いろいろな種類の願いです。

ハ ヴォイ (ha : 強調詞) : 全く、本当に、確かに (vai : 肯定詞) : 実に、誠に

ヴァージャシュラヴァサハ (vājaśravasaḥ) ヴァージャは、食事。シュラヴァは、配る。

合わせて「皆に食べ物をたくさん配って有名になった」という意味。その息子がヴァージャシュラヴァサハ(寄付行為で昔から有名な聖者の家系の)。

サルヴァ (sarva) すべての ヴェーダサム (vedasam) 財産、富

ダダウ (dadau : 与えた、寄付した) ※過去形

「財産すべてを寄付するヴィッシュワジイトという儀式 (ヤッギャー) をした」

タッシャ (tasya : 彼には) 彼=ヴァージャシュラヴァサ

ハ ナチケートー ナーマ (ha naciketā nāma : ナチケートーという名の)

プットラハ (putraḥ : 息子)

アーサ (āsa : いた) 現代のサンスクリットでは、「アシット」を使っています。

全部の言葉の意味を整理すると

「vājaśravasaḥ ha vai uśan sarvavedasaṃ dadau tasya ha naciketā nāma putra āsa」

言葉のポジションが別々です。俳句のように言葉を整理しないと意味が分かりません。そのために言葉を整理します。

ヴァージャシュラヴァサハの意味は、その方の「お父さん」、または「先祖」の名前。先祖またはお父さんの2つの可能性があります。

そして、ヴァージャシュラヴァサハはある儀式を行っていました。その儀式の名前は、ヴィッシュワジイト。そのヴィッシュワジイトは節の中に出てきていません。注釈者が作りました。

昔、ヴァージャシュラヴァサハは儀式のために、自分のすべてのものを、お布施のように捧げなくてはなりません。それが条件です。いろいろなヤッギャーがありますけれども、そのような条件の儀式を調べ、注釈者はそれを考えて、ヴィッシュワジイトヤッギャーということになりました。ヴィッシュワジイトの言葉の意味は、ヴィッシュワが宇宙、ジイトは勝利する。という意味です。前後関係で「天国に行くこと」を意味します。

自分の持っているすべてのものを捧げて、見返りに宇宙のすべてのものをもらうため、天国に行きたいためにその儀式を行いました。

皆さんのヤッギャー (儀式) の目的は、何でしょう。

欲しいものを手に入れるには、お金が必要です。お金があれば、たくさんのが手に入ります。インドのこ

とわがで、「お金があったら、トラのミルクも買うことができる」と言うのがあります。トラのミルクを買うことは、もちろん難しいですが、そのようなものも、お金があれば買うことができます。

普通の人があるものを手に入れたかったら、知っているいろいろな方法で、欲しいものを手に入れます。

しかし、普通のお金と方法では手に入れることができない時、特別な願いを叶えるために、特別な方法が必要です。それがヤグジャーを行う目的です。

「ローキック」と「アローキック」という言葉があります。ローキックは、普通の方法でできることです。アローキックは普通の方法ではできないので、そのために超能力を使う方法です。その超能力を使う方法がヤグジャーです。例えば、神様は天国にたくさんいます。ある神様を喜ばせると、神様の恩寵でその願いが叶います。ある神様を喜ばせる方法として、ヤグジャーを行います。

神様を喜ばせるヤグジャーには2種類あります。1つはマントラです。ある特別なマントラをその儀式で唱えます。そのようにして、神様を喜ばせるために、たくさんのマントラを唱えます。

バガヴァッド・ギーター 11章38.39節にも、クリシュナが宇宙の形相を見せた時、アルジュナがクリシュナに長いマントラを唱え、褒めたたえ、尊敬しました。

*Tvam ādi-devaḥ puruṣaḥ purāṇas tvam asya viśvasya param nīdhānam /  
Vettā'si vedyaṁ ca param ca dhāma tvayā tataṁ viśvam anantarūpa // 11-38*

あなた様は最初的人格神、最古老の大祖、全世界の安息所でいらっしゃいます。そして全てを知り給う方であり、知り得るもの全てでもいらっしゃいます。また究極の目的であり、全宇宙に満ちておられます。おお永遠不滅のお方よ！

*Vāyur yamo'gnir varuṇaḥ śaśāṅkaḥ prajāpatīs tvam prapitāmahaś ca /  
Namo namaś te'stu sahasra-kṛtvāḥ punaś ca bhūyo'pi namo namaś te // 11-39*

あなた様は風神ヴァーユであり、死神ヤマであり、また火神アグニ、水神ヴァルナ、月神シャシャーンカであり、全生物の始祖でもいらっしゃいます。そのあなた様に私は幾千度も讃嘆し礼拝いたします。南無、南無、南無と！

これが1つ目の方法です。

2つ目は、火をつけてお供えします。お供えすると火が出ます。煙と匂いも出ます。匂いが出ると、それで神様の食べ物が、粗大なものから精妙なものになります。私たちの食べ物は粗大的ですが、神様の食べ物は精妙なものです。

神様をたくさんの言葉で褒めて、喜ばせて、そして、精妙な食べ物のいろいろな匂いを煙の中から出して、神様に楽しんでもらいます。そうすると神様はもっと喜びます。そして、あなたの願いが叶えられます。

貧乏な人もお金が欲しい。お金持ちはもっとお金が欲しい。息子がいないので、息子が欲しい。ラーマチャンドラのお父さんは子どもができなかったので、ヤグジャーを行った結果、ラーマ、ラクシュマナ、バラタ、シャトルグナというように、子どもをもうけました。また、敵を滅ぼす力がない時など、いろいろなヤグジャーが、叙事詩やプラーナや聖典の中にも出てきます。特別な願いを叶えるために、超能力を使ったやり方をします。

また、儀式を行う時の大切な注意点として、ヤグジャーはとても複雑ですから、気をつけないと反対の結果が

出る可能性があります。普通の祭司ではできません。特別な祭司でないといけません。

正しい道具を全部揃え、正しくマントラを唱え、作法も正しく行いますが、もっと詳しい決まり事もたくさんあります。そのようにして、ヤグジャーを行わなくてはなりません。

そして、もう1つ大切なことは、祭司がヤグジャーを行った後、その祭司にお布施をしないといけません。それもとて重要なことです。お布施も聖典に詳しく書かれています。今は、お布施はお金ですが、昔は牝牛でした。インドの昔、ブラーミンたちは、毎日ヤグジャーを行っていました。すべてのバラモンと聖者は毎日、自分の霊的実践の1つとして行っていました。そのための重要なお供えものが「ギー」です。ギーは必ず捧げます。バターを精製して作ったものをグリターと言います。そこからギーという発音になりました。グリターは必ずお供えしないといけませんから、牛乳が必要です。それだけではなく、牛乳はコンフリートフードで、体のために必要なものが全部入っていて、牛乳だけで生きることができます。

その他に、自分の田畑もあったので、牝牛が大きな財産でした。ですから重要なお布施の1つが牝牛でした。

もちろん一緒にお金もお布施することもあります。ヤグジャーの条件は、自分の元気な牝牛をお布施として祭司に捧げなくてはなりません。

タム ハ クマーラム サンタム ダクシナーす ニーヤマーナース シュラッターヴィヴェーシャ ソーアマンニャタ  
*Tam ha kumāraṁ santam dakṣiṇāsu nīyamānāsu śraddhāviveśa so' manyata Verse 1.1.2*

ナチケーターは父が捧げた贈り物の類を見た。ナチケーターは若かったが聖典の教えを信仰し尊敬していた。彼はその信仰の光の中で沈黙考した。

【訳】協会書籍『ウパニシャド 改訂版』P44 10行目

……この吝嗇(りんしょく)さ(けち。ひどい物惜しみ)を見て、彼の若い息子であるナチケータスは聖典の説く真理を心に受け止めていたので、ひそかに考えた。

【単語】

タム ハ クマーラム サンタム (tam ha kumāraṁ santam : 息子、ナチケーターは若かった)

ダクシナーす (dakṣiṇāsu : 贈り物) ※複数

ニーヤマーナース (nīyamānāsu : 捧げられた)

シュラッター (śraddhā : 信仰し尊敬する性質)

アーヴィヴェーシャ (āviveśa : 中に入った) [シュラッターが中に入った]

サハ (saḥ : 彼)

アマンニャタ (amanyata : 沈黙考した)